

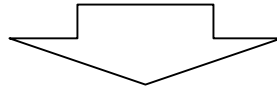
てぶら観光実証実験の概要

(平成13年8月～平成13年9月)

背景

沖縄県への入域観光客は450万人を超えている。団体旅行から少人数旅行へと旅行形態の変化を反映し、夏場には若年層を中心にして観光施設等への移動手段としてレンタカー利用が顕著になっており、那覇市内での交通渋滞を拍車をかける要因となっている。

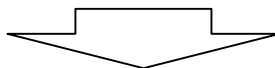
このため、那覇市内で那覇空港からホテル等宿泊施設まで手荷物を直接配送することにより交通渋滞緩和のための実証実験を1か月間実施した。



実験の概要

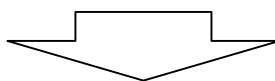
那覇市内のホテル等に宿泊する観光客に対し、那覇空港からホテル等宿泊施設まで手荷物を200円で配送。手荷物から解放された観光客が路線バスを利用することにより交通渋滞の緩和を図る。

- ・実施主体：沖縄日通エアカーゴサービス(株)
- ・宅配事業者：沖縄日通エアカーゴサービス(株)外4社
- ・沖縄県と那覇市が広報活動を行い、交通指導は沖縄県警察本部の協力を得た。
- ・「のぼり」や「ポスター」を空港内に設置・掲示した。
- ・機内誌に掲載する外、チラシを配布。



実験の成果

実験期間中の手荷物取扱量は、648個(1日平均21個)となった。渋滞緩和の直接的な効果は分からない。アンケート調査によるとてぶらになった約7割がバスを利用したと回答。一方、てぶら観光がなかった場合、てぶら観光利用者の6割がタクシーを利用したいとの回答であった。



実証実験自体としては有意であったと思われるが、空港での手荷物保管場所の確保、ホテル等宿泊先との連携、事業の採算性などの課題が浮き彫りになり、本格的な実施には至らなかった。